

4) 姿勢・反射による脳障害児の早期発見に関する研究

児 玉 和 夫 (整肢養護園小児科)

目的及び方法

現在迄に発達をビデオで記録した700名の乳児のうちで、脳性麻痺となった乳児と、最初中枢性協調障害を認め脳性麻痺が疑われたが脳性麻痺とならなかった乳児について、乳児期早期にみられた各姿勢反応のどの点が異常で、それらが将来の異常にどうつながっていくか、或いはつながらないかを各症例についてビデオテープを解析し検討を加えた。

そして主な部分は写真に現象して行なった。なお、今回は時間の都合で、700例全部の解析はできず、解析した主な結果についてのみ報告する。

結 果

- 1) Vojtaの姿勢反応のうち、Callis 垂直反応では異常がみられず、脳性麻痺となった乳児の解析。

この群は化死分娩児に多く、動きが不活発な乳児に多い。また診察時期が早期であればある程、脳性麻痺となった症例においても垂直反応は異常とならない。そのような症例は反応がむしろ無反応に近く、そのため全身の筋トーンスが低下していると思われる。然しその後、経過を観察していくと、永続的に下肢を伸展しないものはみられなかった。

未熟児にみられる痙直型で下肢をまったく伸展しないものは存在しなかった。但しここでいうまったく下肢を伸展させない要素は微妙で、股関節、膝関節を屈曲さすが、問題は足関節でこれには2型がみられた。

- ① 足関節の尖足位

- ② 足関節は一見、曲げているが正中位の背屈が不能で内反傾向がみられるもの。

このような軽いものが脳性麻痺となったかどうかは不明であるし、これが訓練したからよくなったかどうか不明である。

- 2) 仮死分娩児にみられるMoro 反射

仮死分娩児にみられる異常なMoro反射はすべてのMoro反射誘発の姿勢で誘発される。この時みられるMoro反射は上下肢共に反応する。すなわち上肢では単純伸展でなく、上肢をかかえこむようなholdingの相を少なくとも指先には持っている。下肢も同様にかかえ込むような反応がみられる。足は伸展し、足先の裏を合せ指を合わせる。

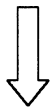
上肢でMoroはみられるが、下肢はそのままの症例では脳性麻痺となったものは一例もみられなかった。然し仮死でこのようなMoro反射がみられたからといって必ずしも脳性麻痺になるとは限らない。

- 3) 姿勢反応が異常にできれば脳性麻痺となるかそれは必ずしもそうなるとは限らない。7つの反応が全部、異常でも脳性麻痺とならなかった例を経験している。この症例はタクシー中で娩出し、その後10数分間、病院で処置を受けるまで仮死であった。娩出以前は異常なく、分娩前後のFetal asphyxiaで乳児期早期は伸展傾向が強くみられ、7つの姿勢反応がすべて異常であった。4ヶ月より療育を開始した所、7ヶ月では殆んど正常となってしまった。頸は3ヶ月～4ヶ月で坐り、訓練を開始して1週間後であった。この症例は訓練しなくても正常となったと思われる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的及び方法

現在迄に発達をビデオで記録した700名の乳児のうちで、脳性麻痺となった乳児と、最初中枢性協調障害を認め脳性麻痺が疑ぐられたが脳性麻痺とならなかった乳児について、乳児期早期にみられた各姿勢反応のどの点が異常で、それらが将来の異常にどうつながっていくか、或いはつながらないかを各症例についてビデオテープを解析し検討を加えた。

そして主な部分は写真に現象して行なった。なお、今回は時間の都合で、700例全部の解析はできず、解析した主な結果についてのみ報告する。